



股関節をのこす 股関節鏡手術ってどんな手術?

股関節鏡手術の利点は、手術の傷がわずか10mm程度であり、手術による体の負担が少ないことにつきます。しかし、技術を習得するためには多くの訓練が必要であり、現在、日本国内には、こういった訓練をする機関もなく、技術習得は困難です。

そのため藪野と澤田は、さらなる股関節鏡技術習得のため7月19日から21日に行われたAANA（アメリカ関節鏡協会）主催の股関節鏡手術のマスターコースに参加してきました。場所は別名『風の街』で知られるシカゴ。最近では、阪神タイガースの藤川球児さんが移籍したシカゴカブスで有名な街です。気候はほとんど大阪と同じで蒸し暑く、人に会う度にmuggy（暑苦しい）と繰り返していました。



シカゴ美術館

さて、股関節鏡手術について聞いたことのある方は少ないと思いますが、それは国内でほとんど行われない時代が続いたためです。最近になって、股関節痛の原因の究明や、さらに関節鏡での手術手技が向上するにつれ注目をあびるようになりました。実際、こういった手術をするのかというと、手術中に直径5mmの特殊なカメラを関節の中に入れ、痛みのある場所を確認し、余分な骨の出っ張りをけずったり、痛んでいる関節唇（関節を安定させる組織）を修復したりする手術です。手術後、リハビリテーションを行います。最近では、レディーガガさんや Yankees のアレックス・ロドリゲスさんなどがこの手術を受けたことでも知られています。

今回のマスターコースのインストラクターは、股関節鏡手術の世界的権威であるMark Philippon先生、Victor Illizaliturri Jr先生であり、基本から最新の治療方法までの講義で始まり、さらにVictor先生からは、直接屍体を用いての指導を受けることができ、大変感動した有意義な3日間でした。

今後、さらに多くの患者さんに股関節鏡手術を安心安全に提供できる自信となりました。



Victor先生と共に



トレーニングセンターの全貌



股関節鏡手術の実際の様子

当センターでは、患者さんの体に負担の少ない、股関節鏡手術を行っております。